

むがしの高松

2003.3

第16号

知っていますか？ 埋蔵文化財の楽しみ方



うさみ教授
考古学の専門家
毎日発掘をしている
のんびりした性格

さるた助手

うさみ教授の助手
ひそかに大発見をねらっている
実はうっかりもの



アルバイトのこんどう君
大学で考古学を勉強している
発掘のアルバイトをしている
顔に似合わずまじめ



魅力満載 今号のメニュー

特集!! これで万全 埋蔵文化財活用術 2P

こんどう君から見た発掘現場のようす 4P

必見!! よみがえる弥生時代のムラ（奥の坊遺跡） 6P

不動産情報 8P

特集!!

これで万全 埋蔵文化財活用術

遺跡はみなさんの身近にあります。高松市内にもわかっているだけで800箇所以上もあります。「そんなにたくさんあるのなら、私の家の近くにもあるのかなあ…。とりあえず調べてみよう。」ということで、今回は埋蔵文化財を上手に活用する方法をお教えします。



■歴史資料館や市民ホール展に行ってみよう！

800箇所も遺跡があるけれど、どこにあるんだろう？どんなものなんだろう？そんな疑問を持ったなら、とりあえず歴史資料館の展示や市民ホールの展示を見に行ってみましょう。



毎年夏に開催される市民ホール展

市民ホール展開催要項

毎年夏休み期間中の1週間市役所1階で開催
開催日は広報やホームページに掲載

歴史資料館の問い合わせ先

高松市昭和町一丁目2番20号 087-861-4520

その他市内の公立博物館

香川県歴史博物館 087-822-0002
瀬戸内海歴史民俗資料館 087-881-4707

■遺跡を見学しよう！

さて、身近な遺跡の場所が分かったら、見学に行ってみましょう。昔のムラの跡などは地面の下にあるので見えませんが、古墳は昔の形のまま残っていることが多いので、古墳の見学がおすすめです。



久本古墳（高松市新田町）



石船塚古墳（高松市峰山町他）

注意：足元に気をつけて、けがのないようにしましょう。

遺跡は古代から現代まで残ってきたもので、国民共有の大事な財産です。遺跡を傷つけないことはもちろん、石なども持ち帰らないようにしましょう。

■現地説明会に行ってみよう！

発掘調査して重要な発見があった場合は現地で説明会を開催します。高松市では、ほぼ毎年開催しています。発掘調査したばかりの遺跡を見学できる絶好の機会です。土器が昔のまま埋まっているのを見たり、また、専門家の説明を聞くことができます。



■イベントに参加してみよう！

高松市では親子で楽しめる「親子文化財教室」を開催しています。また、地域や学校へ出向いての「出前文化財教室」も実施しています。その他、土器の復元作業を行っている整理事務所への遠足や中学校の職場体験学習の受け入れもしています。



親子文化財教室（土器づくりに挑戦）



出前文化財教室（前田小学校4年生）



円座整理事務所公開（一宮小学校遠足）

土器づくりの感想

土器を作るとき、つみ上げていく所が一番むずかしかった。もようを入れるのをくふうした。火起こしは、火だねになかなか火が移らなくて苦労した。土器は少しこわれてしまったけど、よくできたと思う。（中央小4年 富田貴志）

土器を作るのがむずかしく、作り直した。土器をやくのすごい苦労したから、昔の人はすごいなあと思いました。（四番丁小4年 糟谷しのぶ）

*これまで以下のような親子文化財教室を実施しました。
古代の塩づくり、縄文クッキーづくり、古代の土器づくり、
発掘体験、石器づくり、古代人の服装ファッションショー等



みんなも参加
してみてね。

お問い合わせ先 高松市教育委員会文化部文化振興課
高松市番町一丁目8番15号 087-839-2636
<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sinkou/index.html>

こんどう君から見た 発掘現場のようす

テレビで写る発掘調査の場面といえば、ハケで土器を少しずつ掘り出すシーンです。私たちもそんな仕事だと思ってやり始めましたが、実際にはそんな仕事はごく一部でした。発掘現場や整理作業は大変な仕事です。でもやりがいのある仕事です。私たちが見た発掘調査の本当の姿をお教えします。



発掘調査編



バックホーで表面の土を取り除きます。
「機械の力ってすごーい。私たちの出番はありません。」



遺物や遺構が出る層になるとスコップやクワで掘ります。
「私たちもスコップで掘ります。結構体力が必要です。」



遺構はまず半分だけ掘り、どのように埋まったのかを調べます。
「狭い所を掘るので、見た目より結構大変。」



遺物が出土すると、ハケやヘラできれいに土を取り除きます。
「遺物が動かないようにそして傷がつかないように…。」

発掘調査の極意

大胆かつ繊細に、すばやく
そしてきれいに…



遺物がどこで出土したのかを図面と写真で記録します。
「方眼紙とにらめっこ。夢にまで出てきそう。」

整理作業編



ハケや筆でやさしく水洗いします。
「もようなどを消さないように…。」



発掘作業は調査の
前半戦。それでは
後半戦いってみよう。



土器のかけら1点1点にどこで出たものかを書いていきます。
「筆でできるだけ小さく書くので肩が凝っちゃいます。」



土器のかけらをつなぎあわせ、無い部分は石膏で埋めます。
「ジグソーパズルよりもむずかしい。イライラ。」



土器の形を忠実に図面に写します。
「なかなか実物どおりには書けません。」



現場の実測図と遺物の実測図をペンで清書します。
「少しのミスも許されません。緊張しちゃう。」



実測図、写真に文章をつけて報告書を刊行します。
「これでやっと発掘調査が終わり。お疲れ様でした。」

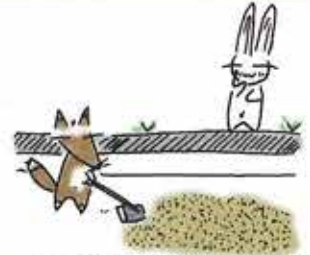
発掘調査は宝探しではないのです。発掘で出てきたものは、1個1個記録を取り、丹念に調べます。そう、まるで事件現場の現場検証みたいな感じです。出てきた遺構や遺物から当時の状況を推理していきます。このため、どんな些細なことも見逃さないよう細心の注意をもって仕事をしています。



そうか！発掘って
ただ掘り出すだけ
じゃないんだ…。

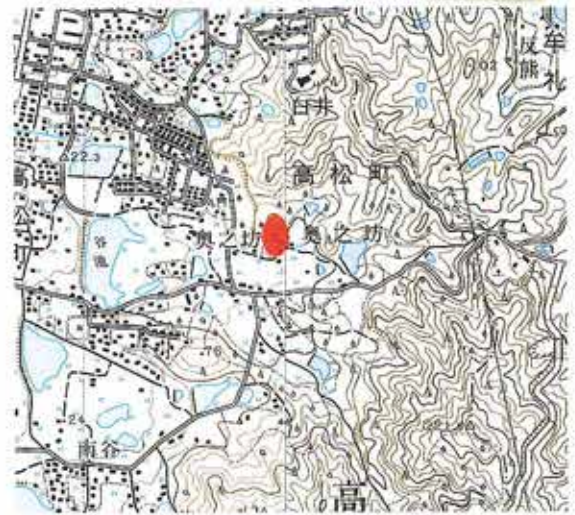
必見!! よみがえる弥生のムラ

奥の坊遺跡(高松市高松町)



高松市の東端，高松町の丘陵地で整備が進められている高松市東部運動公園（仮称）において平成7年から平成14年までの8年間をかけて，約2万7千m²という大規模な面積の遺跡が調査されました。弥生時代中期（約2100年前）のムラがまるごと発掘された他，弥生時代後期（約1800年前）や，飛鳥～奈良時代（約1300年前）のムラ，縄文時代（約3000年前）の落とし穴，古墳時代後期（約1400年前）のお墓などが見つかりました。これらの遺跡が「奥の坊」という地名にあることから奥の坊遺跡群と総称しています。

今回は，この奥の坊遺跡群のうち，弥生時代中期のムラ全体が発見された奥の坊遺跡を紹介します。



遺跡位置図

「国土地理院発行の2万5千分1地形図(高松南部)の一部を掲載」



奥の坊遺跡全景

丘陵の南緩斜面に作られた集落です(写真中央部)。



竪穴住居跡

このような竪穴住居跡が数十箇所発見されました。



しょうさくり
松菊里型住居

朝鮮半島で見られる住居の形です。特徴は中央の穴の両脇に柱穴があることです。



焼失家屋

焼けて炭になった柱のざんがいが見つかりました。(矢印が柱)



竪穴住居内土器出土状況

竪穴住居の中からは多量の土器が出土しました。



土器出土状況

壺と甕が立った状態で出土しました。

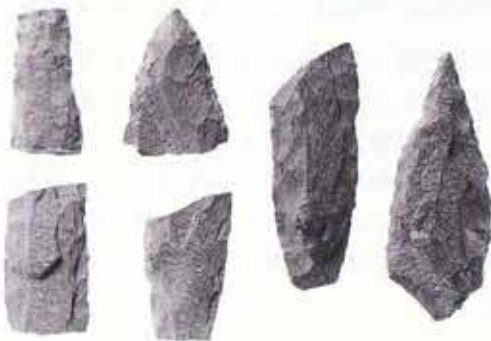


土器は形や使い方によって名前が違うんだ！
壺（食べ物などを貯える）
甕（ご飯をたく）
鉢（食べ物を盛りつける）



奥の坊遺跡出土弥生土器

2000年以上前の土器たちです。壺（左）、甕（中）、鉢（右）など多種多様な土器が見つかりました。



奥の坊遺跡出土石器（石の槍）

石のやじり500個など、多量の石器も出土しました。



奥の坊遺跡出土分銅形土製品

祭祀具（精霊などをまつる道具）と考えられています。

おっ！こんな所に
弥生土器が・・・



奥の坊遺跡は、丘陵部の南向きの緩斜面に営まれた住居数50棟程度の弥生時代中期前半（約2100年前）のムラです。石器や石器を作った際にできる石屑が多く出土しており、石器を製作していた集落であることがわかりました。また、松菊里型住居や朝鮮系無文土器などが見られ、朝鮮半島との関係も注目される遺跡です。さらに、分銅形土製品など当時の祭祀具もみつかっています。

不動産情報

木造平屋 1LDK
 築 弥生時代中期 (2100年前)
 建築面積 約50m²

庭つき、一戸建て、南向き

建築材料

- ①柱材……クワ
- ②梁材……ヤブニッケイ
- ③屋根材……ニレ
- ④屋根……カヤ?

いろりを囲んで一家
 だんらん。5~6人は
 十分暮らせます。



周辺の生活環境

農地	ムラの南側隣接地に谷水田があります。
猟場	周辺丘陵地帯どこでも可。(現在は禁猟区)
漁場	屋島湾まで約1km。イダコ漁が人気。
学校	自然が学校です。大いに学びましょう。
職場	石器工房への就職斡旋。初心者歓迎
交通	投馬国(※)から陸路2日。船で1日
商店	近隣の村と物々交換。ただし不定期。

※註 「魏志倭人伝」に記載がある弥生時代の国。現在の中国地方や香川県詫間町にあったという説があります。

発掘調査で検出した状況 (6pの焼失家屋参照)

竪穴住居跡全体に炭や焼土が見られました。写真では炭化した柱が放射状に見られます。これらの木材の種類を鑑定することで、住居に使われていた木材の材質が分かりました。土器類が持ち去られていることから、火事というよりも不要になった住居を燃やして処分したと考えられます。



編集後記

これらのイベント情報や発掘調査速報はホームページでも掲載しております。ご意見・ご感想もお待ちしております。

(k.o)

むかしの高松 第16号 2003.3.31

編集発行/高松市教育委員会

高松市番町一丁目8番15号

087-889-2636

<http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kyouiku/bunkabu/sinkou/index.html>

印刷/(有)中島出版